東濃農林事務所の普及活動状況

令和６年１月

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■トマト・いちご　今年のトマト・いちごの状況

【収穫中のいちご「よつぼし」】

管内の冬春品目については、夏の猛暑により生育への影響が心配されたが、10 月以降気温も平年並みとなり安定した天候となる中、出荷が本格化している。

冬春トマトについては、昨年度から新たに黄化葉巻病に耐病性のある品種「かれん」を導入している。低段が小玉や裂果など猛暑の影響を受けたが、その後は順調な生育で出荷量も平年以上となっている。

いちごについては、猛暑で花芽分化の遅れが見られたものの、その後の温度・肥培管理の適正化により、12 月初めからの収穫となった。一方、販売の差別化のため、昨年度から新たに種子繁殖性の品種「よつぼし」を１経営体で導入しているが、えき果房の収穫も始まるなど生育は順調である。

今後も、担い手の主要作付け品目であるトマトやいちごについて、技術や経営確立に向けた支援を継続していく。

■有機農業　有機農業推進プロジェクトチーム員会議の開催

【有機農業営農モデルほ場】

県では、本年度、瑞浪市日吉町内の水田に有機農業営農モデルほ場を設置し、水稲の基肥及び雑草対策に関する栽培実証を実施した。

12 月 25 日には、県、市、ＪＡ、有機栽培生産者で構成する有機農業推進プロジェクトチーム員会議を開催し、本年度の結果報告と次年度計画について協議するとともに、あわせて有機農業推進に関する意見交換を行った。

農業普及課からは、生育初期の雑草繁茂の影響で、慣行栽培と比べて単収が少なくなったこと、加えて専用の有機質肥料等のコストが増加したため経営収支は慣行よりも良くないなど、栽培実証全般について総括した。

今後も、有機農業営農モデルの実現に向けた試験栽培を実施し、経営が成り立つ水稲有機栽培となるよう支援していく。

地域資源を活かした農村づくり

■品目・指導対象等　地域計画策定に向けて

【地域計画の会議】

管内一部地域では、高齢化や人口減少の中でも農地を適切に管理するため、農業者自らの話し合いにより地域農業の在り方や農地利用の姿を明確化した計画づくりを進めている。

多治見市北小木地区では、１０月から地主や主要な担い手等とともに農地の地図に色塗り等を行うことで、既に管理されている農地が担い手によるものか個別によるものかを、明確に区分する作業を進めていた。

今回は、計画書本体の策定に向けて地域の関係者との協議が行われ、農業普及課も集落の活性化につながる必要な助言を行った。

今後も管内各地での地域計画策定に向けた取り組みを支援していく。